

令和6年4月30日



学校だより 5月号



横浜市立市場小学校 Tel(581)2107 FAX(581)9387

けやき分校 Tel(580)0105 FAX(580)0135

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/ichiba/>

世界一遅いマラソン記録

校長 重田 英明

本校のピロティの軒先に、今年もツバメが巣作りを始めました。また、技術員さんに取り付けていただいた“こいのぼり”が吹流しと一緒に元気に空を泳いでいます。

新学期が始まり早くも1か月がたとうとしています。どの学年の子どもたちも、入学や進級の喜びを学校生活のいたるところで感じながら過ごしているようです。

さて、今年（今年）はオリンピック、パラリンピックがおこなわれる年であり、7月26日のパリ2024 オリンピック開幕まで3か月あまりとなりました。過去のオリンピックで次のような出来事があったそうです。日本の「マラソンの父」と呼ばれる金栗四三さんの話です。

金栗選手は、1911年（明治44年）、日本人初のオリンピック選手の一員として、スウェーデンのストックホルムオリンピックに出場しました。しかし、金栗選手はレースの途中、日射病で意識を失って倒れ、近くの農家で介抱されていたそうなのですが、意識が戻ったのは翌日の朝のことであつたため棄権の意思がオリンピック委員会に伝わっておらず、行方不明扱いになってしまいました。競技当日は40℃という記録的な暑さで、参加者68名中およそ半数が途中棄権するという過酷な状況でした。マラソン中に消えた日本人の話は、地元で開催されたオリンピックの話題の一つとして、スウェーデンではしばらく語り草となっていたそうです。

その後、1967年（昭和42年）、金栗さんは、「ストックホルムオリンピック開催55周年を記念する式典」に招待されました。「競技中に失踪し行方不明」として扱われていた金栗さんを記念式典でゴールさせることにしたのです。招待を受けた金栗さんはストックホルムへ行き、競技場をゆっくりと走り、多くの観衆と役員の声援の中、場内に用意されたゴールテープを切りました。

この時、「日本の金栗、ただいまゴールイン。タイム、54年と8か月6日5時間32分20秒3。これをもって第5回ストックホルムオリンピック大会の全日程を終了します」とアナウンスされたのだそうです。

この記録は世界一遅いマラソン記録であり、今後もこの記録が破られることはないだろうと言われています。

この夏、一流選手の技や動き、感動をお子様とご覧いただき、親子共有の話題をもったり、新しい発見をしたりしてはいかがでしょうか。



ゴールテープを切る金栗さん